

第4表

結成年次	組織名
昭和48(1973)年以前	川面農会
昭和48(1973)年以前	川面老人クラブ連合会
昭和62(1987)年	川面自治(会)連合会
平成5(1993)年	宝塚駅周辺地区青少年を守る環境浄化推進協議会
平成6(1994)年	川面地車(だんじり)保存会
平成8(1996)年	川面自主防災会

各種団体資料より作成

かの特徴がある。そのひとつは、このような活動がいずれも財産区からの補助を受けていることであり、もう一つはこの活動が旧村民の主体性を鼓舞することに重点が置かれていることである。そこで主要な活動の例をみておくことにしよう。

①川面自治(会)連合会

宝塚市は市域全体の自治会による自治会連合会を設けている。しかし連合会の規模が大きすぎて、かならずしも地域の問題については提起しにくかった。そこで「川面は川面財産区の地域の内の自治会で(自治会連合会を)別個につくろうということで」昭和62(1987)年に発足したのがこの団体である。おりから進捗しつつあった「宝塚駅前地区再開発」によって地区が行政と折衝する必要がでてきたことも、その結成のきっかけになったようである。現在では地区内の12自治会が参加している。

自治会連合会の会長は、結成時から財産区管理会の監事を兼任しており、財産区を「スポンサーみたいなもの」と述べているように、財産区から補助を受けている。また平成5(1993)年には、自治会連合会の役員で「宝塚駅周辺地区少年を守る環境浄化推進協議会」を結成したが、この団体も財産区からの補助を受けている。

②川面地車(だんじり)保存会

川面地車保存会は平成6(1994)年に、個人参加の組織として発足したばかりの新しい団体である。この団体が発足したのは徐々に祭礼の主な担い手である青年団に参加する青年の数が減少していることや自治会の関わりが薄らいでいること、

だんじりの保管費用の負担などの問題がでてきたためである。

川面地車保存会が結成されたのは、このような問題を解決するためである。この結成の中心になったのは財産区管理会の若手の役員である。会長、副会長以下33名の団体として発足した。なお会長には財産区管理会の役員が就任している。会の目的として「川面地区住民共有の財産である三基の川面地車を適正に維持管理し、保存していくとともに、会員相互の親睦を図ること」を目的としている。

この団体の主要な活動としては「川面六町」で管理している3台のだんじりの保全および、祭礼や宝塚祭りの際のだんじり運行の主力となる青年団の支援などである。現在の財産区がもっとも育成に力を注いでいるのはこの団体であり、それは補助の金額が最も多いことにも表れている。

③川面地区自主防災会

川面地区は阪神・淡路大震災によって大きな被害を受けた地区である。川面地区自治会連合会が川面地車保存会に呼びかけて平成8(1996)年3月に結成式を行い発足した。各自治会と川面地車(だんじり)保存会のメンバーを主要な構成員として初期消火や防災訓練を行うとしている。この団体の会長には自治(会)連合会の会長が就任しており、財産区からの資金補助を受けている。

このように地区全体を範囲とする活動が次々と立ち上げられているのだが、その主要な役員には旧村民がついており、またいずれも財産区からの補助を受けている点に特徴がある。また、この活動の中には②のように明らかに「川面六町」に居